

マザーハウス たより

あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。
あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。



移送・出所される方は、必ずご一報ください。

2019

7 月号

表紙：横須賀のコンチヨさん
「サンセットビーチ」

- 2 理事長挨拶
- 7 社会の声
- 10 特別コーナー
- 14 ささきみつおコーナー
- 15 育児日記
- 15 塀の中のたより
- 19 Lovely DAYs
- 20 プリズムアート倶楽部
- 21 健康相談窓口
- 22 つぶやき！
- 22 みんなの！回復プログラム 入門
- 23 回復プログラム 入門
- 23 行事予定
- 23 お知らせ

理事長挨拶

雨が続く毎日です。皆さん、いかがお過ごしですか？

晴れ間がとても恋しいですが、これも恵みの雨と考えるようにしています。講演会をするとき、雨が降っていると、なかなか人が集まらなかつたり、荷物が一雨に濡れたり、アクシデントも増えますが、「雨降って地固まる」ということわざもあります。何事にも心を込めて、愛を込めて行い、雨の中、心から感謝することが大切であると感じます。

受刑者の方からの手紙

先日、ある当事者から、「毎月の理事長挨拶が小言ばかりでつまらない、前はもつと楽しかった」と言われました。全くその通りであると思います。

でも、聖書を読むと、いつもキリストは愛をもって

敵しいことを何回も何回も言っていた、と感じてならないのです。受刑者の方一人ひとりがどのように感じるかは分かりませんが、相手の立場に立つて考え、行動するようにすれば、私の書く内容も変わると思っています。しつこいと思われるかもしれませんが、私は決して諦めません。何故なら、人は変えられるからです。どんな人間でも。だからつまらなくても、皆さんの耳が痛くなっても、何回も書きます。

また受刑者の方からクレームのお手紙を頂きました。「自己中心的とか、更生・回復の道は遠いとか、全く収益のない中でスタッフも精一杯対応しているとか、あなたたちにそんなことを言われる筋合いは全くない。勘違いしているのはあなたたちではないでしょうか。金品を支払って、なかなか物が届かなかつたらクレームを言うのは、人としてごく自然なことだと思います。刑務所にいる人間にはクレームを言う資格が無いとも言つのですか。あなたがたがどのような志を持ってこの事業に取り組んでいるとか、私には全く関係ないことではないですか」とのことでした。この方は、今自分がどこにいるのか、何故そこにいるのか、考えたことがあるのでしょうか。「刑務所にいる人間には権利が無いのか」「あなたがたの志など私には全く関係ない」と、自分のことばかりを主張しているように感じます。お客様は神様、という態度です。この方には何も伝わっていないと感じました。

皆さんに考えて頂きたいです。社会で同じような態度を取り続けられ、人が離れていきます。刑務所にいる、いないの問題ではないのです。「刑務所にいる人間にはクレームを言う資格が無いとも言つ

のですか」。大事なものは、そういうことではないのです。刑務所と関わりが無い人間であっても、この方と同じ考え方、行動をするなら、人間社会の中で幸せに（人と良い関係を築いて）生きていくことはできない、ということですか。皆さん、この意味が伝わるでしょうか。一人ひとり、顔と顔を合わせて話すことができないのが残念です。

先日、メディアで、「現代の若者がインターネットで、特定の人を言葉で追い込むのは、想像力が足りないことが一つの大きな原因である」と伝えていました。その通りだと思います。目に見える部分、報道されている部分、表面的なこと、一時的なことに捉われて、目に見えない部分、報道されていない部分、もつと根本的・本質的なこと、そして自分の行為一つひとつが今後相手や周りや自分自身の人間関係にどのような影響するのか、そういったことが想像できないのだと思います。



山の中のシンさん

先ほど紹介した手紙で言えば、確かに、その方が感じるように、マザーハウスからの数々の文面は、「刑務所にいる人間にはクレームを言う資格が無い」「私たちはこのような志を持ってこの事業に取り組んでいくし、精一杯やっているのだから、分かってほしい」と受け取られるかもしれません。もちろん、「これだけやっているのに伝わらない」という悔しさを感じないわけではないですが、それだけでこんなに何度も何度も同じことを繰り返し書くことはしません。

「刑務所にいる人間は」と言いたいのではないのです。一人ひとりの「あなた」に向かつて言っています。社会で生きていくために、人と人との間で良い関係を築き、自分も周りも幸せに生きていくために、「今、どこにいるのか」「何故、どこにいるのか」「相手はどのような気持ちでいるのか」を考えて頂きたいのです。何度言っても伝わらない方がいるので、何度も言います。刑務所にいる人間だから、社会で生きている人間よりも我慢してください、と言っているのではありません。刑務所においても、社会においても、どこにいても、その考え方や行動では、いずれ社会の中、人の中で生きていけなくなる、例えその中に生きているも孤独になる、だから「しっかりと考えてください」と言っているのです。

マザーハウスの状況を書いたのは、「大変ですね」と言っただけからではありません。その状況を知った時、皆さんは何を感じましたか。「そんなことを言われても、私はお金を払って利用している側だし、そちらはサービスを提供している側だから、関係ない。ただの言い訳だ」と感じましたか。そこで終わらずに、

もつと先の部分まで考えて頂きたいと思います。「そんな状況なのに何故続けているのだろう」「何故、人手が足りないのだろう」「その状況を知って、私が次回、手紙を出す時はどのように書けばいいのか」など。誤解しないで頂きたいのは、これらは、「そんな状況なのに続けていて、マザーハウスは凄い！有難うございます」とか、「これから手紙を書く時には、まず感謝と労いの言葉を入れなさい」と皆さんに思っただけではないかもしれません。これだけ何度も言っただとしても、「私には関係ない」と突っぱねるなら、社会に出たとしても、相手の立場に立つて考えることなどできない、ということなのです。そのことを理解して頂きたいです。

社会に出てしばらくは、上手くできるかもしれませんが、でも、一生涯、続けることはできないと思います。今から、考え方・態度を見直さないと、社会に出てからは遅いのです。社会は厳しいです。練習時間など与えてくれません。あつという間に吞まれます。

私は、相手が役所の人間であっても、学生であっても、同じような態度を取っていれば、同じように言っています。皆さんが刑務所にいるからこのようなことを言っているのではないのです。皆さんにとっては、たまりが、マザーハウスの活動に触れる時間の大部分を占めているから、「受刑者にばかり厳しいことを言っている」と感じるのだと思います。

先ほどの手紙を読んで、私は、その方にはコンプレックスがあるのだろうと感じました。「刑務所にいる人

間にはクレームを言う資格が無いとでも言うのですか」。この言葉は、そのコンプレックスの裏返しではないでしょうか。刑務所にいること、前科があること、世間から見下され、見放されていると感じること…「刑務所にいることで、違う扱いをされる」ということが分かっている、その不安や苦しみを少なからず感じているからこそ、この言葉がばつと出てくると思うのです。

だから、「刑務所にいる」ということを、この方は意識していると思います。でも、卑屈な方面の意識が強く、向き合う意味での意識にはなっていないと感じます。「刑務所にいるから何だ」と突っぱねるため、開き直るために「刑務所」を意識するのではなく、「今、刑務所にいる。何故なのか。自分は何をして、誰にどのような思いをさせているのか。繰り返し返さないためにこれからどうすれば良いのか」と、これからは生きるために意識して頂きたいです。自分がした行為で誰かが傷つき、苦しんでいることについて、考えて頂きたいです。

マザーハウスが言いたいのは、皆さんはクレームを言う立場にないとか、刑務所にいるのだから黙って受け入れるべきだとか、そういうことではなく、「自分がどこにいて、何故フランス・スコ事業部が運営されているのか」ということを考えれば、一般常識・マナーとして、運営の趣旨やスタッフの人手、他にも大勢の受刑者が同じように利用していること等、状況を思いやった態度が自然と出てくるはずではないか、と言いたいです。頂いた手紙には「人としてごく自然なこと」とありましたが、そのまま言葉を返したいです。

何度も言います。刑務所にいる人間だから我慢してください、と言っているのではないのです。「刑務所にいる人間にはクレームを言う資格が無いとでも言うのですか」「あなたがたがどのような志を持つてこの事業に取り組んでいるとか、私には全く関係ない」…このような心持ちで生きてきたから、今、刑務所にいるのではないですか。刑務所を出ても、同じ態度のまま外にでて、社会で、人と人との間で、幸せに生きていけると考えているのですか。同じ言葉を、社会で言ってみてください。同じ態度を、社会で取ってみてください。その時に相手が返してくれる言葉・態度が、貴方のその生き方に対する答えです。いずれ、孤独になると思います。

私は、キリストを土台にする者として、そのような生き方を皆さんには歩んでほしくないと考えているので、しっかりと言います。今、どこにいるのか、何故ここにいるのか、今まで関わってきた人たちのこと、自分の言動が今までどのような影響を与えたか、考えてください。

理事長挨拶でいつも厳しいことを書いている、と感じるなら、その機会を利用する勢いで、「相手の状況を想像する」ことをして頂きたいと思えます。上辺の感謝・労いの言葉を書く代わりに、理事長挨拶でも何でも、読み込んで、考えて、「相手の立場に立つ」という想像力を鍛える練習台にして頂きたいと思えます。

文通でも同じことです。相手のことを考えていないから、平気で事務局に、「相手から返事が無い。変

えてください」と手紙を出すのです。事務局に手紙を出す前に、考えてみてください。相手は今どのような状況だろうか。とても忙しいのかもしれない。何か辛いことがあったのかもしれない。

「返事が来ずに不安になった時、皆さんは、相手のことを慮る手紙を出してみたことがありますか。「半期間やり取りが無ければ自動終了」と、事務局が長い期間を設けているのは、その間に、自分自身でできることを考え、行動して頂きたいからです。

ぜひ、ハガキでも良いので、「いつも楽しみにしています。でも、無理しないでください」の一言だけでも、まずは自分で出してみてください。「相手から返事が無いのですが、しばらく出してみます。それでも返事が無ければ、また相談するので宜しくお願いします」と事務局にお手紙を出してきた方もいます。上手いかなから次、とするのではなく、現状に向き合って、解決に取り組んでみてください。自主的に考えて行動して頂きたいです。その経験が、刑務所においても、社会においても、やがて活きる時が来ると思っています。

話は戻りますが、人から本当に大切にされた、愛された思い出がある人は、「私にはそんな権利が無い」と言うのですか」「私には関係ないことだ」「相手と合わない、相手が悪いから次に行こう」など、このような考えにはならないと思えます。でも、愛された体験をもっていないと感じる人も、「自分」というものを深く見つめ、悔い改め、「愛し愛される」人に生まれ変わるように、日々、努力し、姿を見せていけば、本当に生まれ変わっていくのです。

それができない、孤独で貧しい人がいると感ずます。そして、その方の周りには、善を教えてください、実践している人が全くいないのだと感ずます。

私たちは、「キリストの精神に基づき、回復・社会復帰サポートの活動」を目指しています。刑務所の状況を見てみると、一人の問題が全体の問題となり、それによって、可能であったことが不可能になっている、と感じてなりません。回復のために努力し、姿を見せている人たちをマザーハウスは応援していきたいです。

先日、「古本募金ができない」という連絡があり、矯正局の総務課長や関係機関に連絡をし、「一人のために自分ができることを実践する機会を何故、妨害するのですか」「法務省矯正局・保護局は、受刑者の更生を支援するところではないのですか」とお話しさせて頂きました。その結果、着払いでの古本募金が許可されることになりました。

人権問題に関する手紙の宛先

受刑者の皆さんから、刑務所内の人権問題に関してお手紙を頂きますが、人権関係については、NPO法人監獄人権センターの方が対応されています。そちらか、もしくは、法務大臣の山下貴司衆議院議員事務所へ上申書を提出して訴えてください。受刑者の生の声を伝えることが一番良いと感ずます。

★NPO法人 監獄人権センター

↓〒160-0022

東京都新宿区新宿2-3-16

ライオンズマンション御苑前703

★山下貴司衆議院議員事務所

↓〒100-8982

東京都千代田区永田町2-1-2

衆議院第二議員会館719号室

裁判傍聴記の紹介

私が情状証人に立った裁判を傍聴した青年の声が、マザーハウスのホームページに掲載されています（裁判傍聴記⑥）ので、紹介したいと思います。



華蔽（けいん）さん

☆

今回の裁判は、特殊詐欺の「受け子（特殊詐欺などの犯罪で現金を受取る役割）」となった二十代男性Aさんの事件である。

被告人Aさんの第一印象は、半袖Tシャツにスウェット姿で、本当にどこにでもいそうな普通の若者であった。

実は、本件はネット記事にもなっており、実名や顔画像まで出てしまっている。特殊詐欺事件の世間の関心の高さとともに、高齢者をねらう悪質な詐欺という認識から、ネット上では被告人に対する心ない言葉があふれるが、裁判で語られた真実を丁寧に追ってみたい。

まず、事件の概要として、被告人Aさんは、顔も名前もわからない指示役からの電話での指示のもと、被害者となった高齢者宅へ出向き、多額の現金を受け取るうとしたところを現行犯逮捕となった。

今回の事件は、実名も顔画像も公開されていることから、事件の特定を防ぐため、具体的な被害金額や事件発生場所などの詳細は伏せ、事件の概要は上記にとどめたい。

いったいなぜAさんは、

受け子となってしまったのか

被告人Aさんは、両親が離婚した後、父親のもとで暮らすも父親の周囲の関係性も含め環境が悪く、

家出をする。ずっと一人で過ごす中で、「先輩」という知り合いや仲間に出会い、Aさんはそこを「やっ」と見つけた居場所」と話していた。窃盗で一度捕まり、釈放時に身元引受人となつてその後の生活を支えてくれたのも、この「先輩」であるという。

そして、前刑の釈放直後に「先輩」から今回の事件の誘いを受け、一度は断るものの、先輩に対する恩や、居場所をなくしたくない思い、上下関係に敵しい先輩の誘いを断りきれず、詐欺グループの指示のもと受け子となつてしまった。

被害者に対し電話をして、巧みなウソのもと現金が必要であることを伝えたのは詐欺グループの指示役・中心人物の方であり、受け子であるAさんは、被害者がいついたどのようなウソで騙されていたのか、その詳細はあとから聞かされ、自分与えられた役割と指示のもと動いていた（しかし、詐欺グループの犯行に関与していることは認識していた）。

ちなみにネット記事やテレビ報道では、あたかもAさんが自分で考えたウソで高齢者をだまし、ひとりでお金をだまし取るうとしたかのような書きぶりであった。それは間違いである。

「受け子」を断ることはできなかったのか

裁判官や検察側からは、自分が詐欺に関与していることがわかっていたのであれば、本当に断ることはできなかったのか、逃げ出すことはできなかったのか、という追求が始まる。

もう一度Aさんの言葉を思い出したい。家にいることができず、家出をし、居場所もない中、先輩との出会いは「やっと見つけた居場所」のように感じていた。前刑の釈放時に身元引受をもらい、生活を支えてもらった先輩への恩や、一人になることの怖さ、居場所を壊したくない、そんな思いの中で断ることができなかったのである。「受け子に失敗したらどうなるか…」ということも先輩から聞かされていたようで、さまざま「怖さ」の中にいたであろうことが想像される。

検察官は、被害者のことを考えれば断ることはできず、前刑の釈放直後でもう二度と捕まるのが嫌だったなら、断って逃げ出すこともできたはずと言わんばかりであったが、Aさんは当時の状況を振り返り、「被害者のことよりも、自分のことで精一杯になってしまった。今は、被害者の立場に立つと、家族を思う気持ちを利用して大事なお金を奪うようなこととはあつてはならないのだとわかる…」と、弱々しく述べていた。

Aさんは、追訴を覚悟のうえで自分が関与した余罪についてもすべて話し、自分が知りうる共犯者についてもすべて話した。

Aさんの居場所はいつ

今回の事件において、マザーハウスが関わるようになったのは、実の母親にも身元引受を断られ、もう「先輩」とは関わりたくないし、また、父のもとにも戻りたくないからであった。

Aさんは、拘留中に五十嵐さんと面会し、話をしたうえで今後の更生の道について、次のように話した。

「最初は、弁護士さんを通じて就職雑誌などを差し入れてもらい、適当に身元引受先が見つかったら、とにかく仕事を見つけてやり直せばいいと思っていました。しかし、五十嵐さんとの面会を通して、仕事よりも居場所や生活の土台を立て直すことの重要性を認識したんです。身元を引き受けてもらううえで、更生という自分の問題を人任せにして、支援に頼るような甘い考えも最初はあつた気もしますが、今は、自分で考えること、どう変わりたいのか、更生したいのか、自分の問題として『変わる意志』を持たなければならぬと感じました。母には身元引受を断られました。母の立場になって考えてみると、母には母の生活があるので、仕方ないとも思います。父のもとには今も帰りたくありません。マザーハウスさんのもとでもやり直したいと思います。今回の事件や裁判を通して、身の回りの人々の大切さを改めて感じました」。

概ね以上のように語った。優等生ぶるような態度でもなく、素朴で素直で、正直な言葉であった。

今回の弁護について

検察側は三年六ヶ月の求刑をするが、弁護側は、「高齢者の資産をねらう悪質な犯行であった」とは否定するものではありません。しかし、

・被告人Aの関与は中心的なものではなく、積極的な関与ではなかったこと。

・追起訴となる事実も正直に話し、過去の犯罪との決別、反省があらわれているといえること。
・マザーハウスという更生のための支援者が身元引受となること。

・まだ若く、やり直しができる年齢であること。
以上から、執行猶予を求める」とした。

Aさんは本当に悪質な犯罪者なのか？

繰り返しになるが、本件はネット記事になり、まだ若いながら名前も顔画像も公開されている。ネットでの反応は、「二十代で高齢者からお金だまし」とか、他にやることないの？遺伝子レベルでおかしいのでは？」や「極刑でもいいのでは？」など、心ない言葉が飛び交っている。

Aさんはいたって普通の若者の姿で、ただずつと一人で過ごしていた中で、たまたま知り合った「先輩」や居場所が悪かった。もし、違う人や居場所に出会っていたら、今回のようにはなっていなかったかもしれない。

離婚した親が悪い？父親が悪い？母親が悪い？そのように家族の問題とするならば、元エリート官僚が息子を刺殺してしまつた悲しい事件が思い起こされる。また、つい最近も、父親が小学六年の息子を殺害してしまつたニュースが流れている。

個人の問題、家族の問題と考えようとするから追い詰められ、エリートだろうがごく普通の家族である

うが、どこにでも暴力や犯罪が起きうる。社会の側に頼る先・逃げる先はなかったのか、このように問わねばならないだろう。

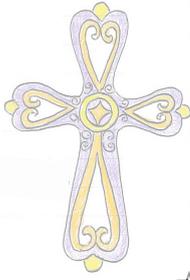
裁判を傍聴しての感想

みなさんは、居場所がないという状況をどれほど想像できるでしょうか。

普通であれば、家があり、職場や学校があり、さらには別な第三の居場所（サードプレイス）もあるかもしれません。複数のコミュニティに属すなかで、人生のさまざまな困難への対処において、私達は日々、人に支えられて過ごしています。家族の愚痴を職場仲間にこぼしたり、職場の悩みを学生時代の仲間に話したりなど、些細な事柄も含めてです。

居場所が一つもない、そんな状況になったらどうしますか？

今回の事件では、そんな想像力が必要だと感じました。



☆



I・Sさん

Aさんは先日、一年十ヶ月の実刑判決となりました。私は彼の回復のために、これからも交流していきたいと思います。

また、同日、〇刑務所を出所した人が自転車泥棒をして、警察に留置されましたが、私が引受人となり、検察庁で釈放となりました。彼の回復のためにも、マザーハウスで関わっていくつもりです。そして何よりも当事者が声を上げることが出来る場所、その声が聴かれる場所が、社会復帰した方にとって必要ではないでしょうか。

自分の目の前に元受刑者が来たら、皆さんはどう思いますか。別の世界の人間と見るか？同じ人間と見るか？もちろん、犯罪をした人が一番悪いです。そのことを擁護するつもりは全くないです。ただ、刑罰が終わった後、覚悟して社会に戻った時、容赦ない差別が待ち受けている今の日本の社会に大きな問題があるのも確かではないでしょうか。皆さん一人ひとりにせひ、考えて頂きたいことだと思っています。より良い社会とするために、愛のためです。

先日、性犯罪被害者の方と面談させて頂きました。加害者の回復のために自分ができることをしていきたい、とおっしゃっていました。

今回、たよりを通してその方の声を皆さんに聞いて頂きたいです。自分には関係ないと思うのではなく、自分の被害者の声でもあると受け取り、考えて頂きたいと切に願っています。皆さん、感じたことをお寄せ頂ければ幸いです。

社会の声

獄中で聖書と出会って

★今年一月に行われた、当事者スタッフKさんと理事長の対談の内容をご紹介します。

(先月号のつづき…)

会いたかった刑務官との交流

五

N刑に、面白い刑務官がいるんですよ。Kさんは実際にその方とお勉強したんですね。

K

はい。マインドフルネスとか、条件反射制御法とか、英語とか…あと、ダルクの職員さんが来て、勉強したり…。集合教誨の時も、その教官がついていました。

五

そこまでやる刑務所って、僕が今まで経験してきた中では、ほとんど無かったんですよ。刑務官が、事件反射制御法とか認知行動療法とかそういうものを専門的に、受刑者とグループセッションを行うっていうことを僕は聞いたことがなかったので、凄いなあと。僕自身、その方に会いたいなあ、ぜひ会ってみたいなあと思っていて。名前も分かっていたので。だけど、なかなかその刑務官の方に会いに行くことはできなかったんですけども。

そんな中、ある方の子どもさんがN県の少年院に行っていて、その子どもさんの回復のために交流をしてほしい、ということ、その関係でN県の少年院に行くことになったんですよ。それでN刑の方にも行きました。本来は、いきなり刑務所に行って受刑者と面会っていうのは難しい。やはり手続きがありまして、非親族登録願いついていうややこしいものが…その登録がないと面会ができない。ただ、満期三か月前の場合に関しては、所長の裁量で、相手が更生に資する人間であれば、面会ができます。それで僕はN県の少年院の面会を終えて、たしか、午後二で…。

K

昼前ですね。昼飯を食べるのが遅れちゃったので(笑)。

五

すみませんね(笑)、冷めちゃったでしょう(笑)。それで、N刑の方をお願いして、幸い、Kさんと面会させて頂いたんですよ。その時は髪の毛が伸びてた

ね。そしてお話しして、「社会復帰したらぜひ来てください。お待ちしています」と伝えました。

で、Kさんとの面会が終わった後、私がどうしても会いたいという、その教官とも会いました。初めて。色んなところでその方のお名前は聞いていたんですけど。あちらの方も、僕の名前を色んなところで聞いていたらしくて、「お会いしたかった」ということで、一緒に刑務所の前で写真を撮らせて頂いたりしました。

出所後の流れ**五**

Kさんは社会復帰して、N県からマザーハウスに来ましたよね。不安とかは？

K

やっぱりちょっと不安はありましたね。面会で五十嵐さんが来てくださった時、一方的に五十嵐さんが喋って、最後に「質問ある？」って言われた時は、全然喋ってないですからね、自分(笑)。全然、何も分からなかったんで、不安はありました。N県から東京まで、その間、ずっと一人…。それも不安だったし、「これから大丈夫なのかな」って…中で、出るまでは、マザーハウスの方で引き受けてくれると、それを胸に安心していただけ、いざ出ちゃうと、やっぱり、「大丈夫なのかな」って不安が湧きました。

五

どうですか？来て。

K

来て、その日に手伝い始めたから(笑)。何だかよく分からなくて(笑)。

五

その時ちょうど、リアアカフェを作ろうっていうので、ペンキを塗る段階だったんですね。でも、そのペンキ屋がいなかった。そんな時、うちの事業部の責任者が、具合が悪くて長期間休んでいて。それで、「このペンキは誰が塗るのっていうことになって、僕はただ「塗る人を与えてください」って祈っていたんですけど、Kさんが「実は僕、ペンキをやっていました」って言うて。もう、来たその日から、他は何も言わず、「はいペンキお願いします」って(笑)。

K

しかも、捕まった時は作業着で、安全靴を履いていたので、出てくる時も、その恰好と、あと中で使っていた軍手してきたから…揃ってるじゃないですか(笑)。そのままですよ。マザーハウスに来て、そのままやり始めた(笑)。それ一着しか服が無いのに、ベタベタになっちゃって(笑)。

五

その後、Kさんと生活保護を受給することについて話をし、それから一緒に行きましたよね、住む所に。

K

自分、物心ついた頃から団地で暮らしていたから、そこから抜け出したかったんですよ、一時。で、抜け出して、父親も年老いて…その父親を見ていたら、また団地に住みたいな、と思っていたんです。そうしたら、五十嵐さんで行った所は、まあ団地とは違うけど、団地みたいなのとろじやないですか。それで、「こゝ、いいな」と思つて家に入ったら、色々揃つていて、ただ屋根があるだけでも有難いのに、家具とかも揃つているから、もう嬉しくてしょうがなかったですね。

でも五十嵐さんがあの時言つた言葉は、「テレビが無くても悪かったな」つて。それを聞いた時、もう屋根があるだけで有難いのに思つて、涙が出そうになった。

五

なかなかテレビまで買う力が僕たちには無いです。やっぱり刑務所では、みんなテレビを見て過ごしたりするので、極力、僕の考えは、一般の人と同じような家を用意してあげなければならぬ、つていう思いがある。ただ、なかなかそれは難しい。生活保護を受けていても難しいので、最初は日用品にしても、支援者の方に頂いたもので皆さん贈ってもらつて、「自分がちやんとお金を貯められるようになったら、自分で買つて生活してください」と言っています。

このプロセスをきちんとやっている方は、社会復帰の中で、土台がきちんとできますよね。与えられたもので満足できない人は、色んなことをやり出してしまっています。

聖書講座に参加して

五

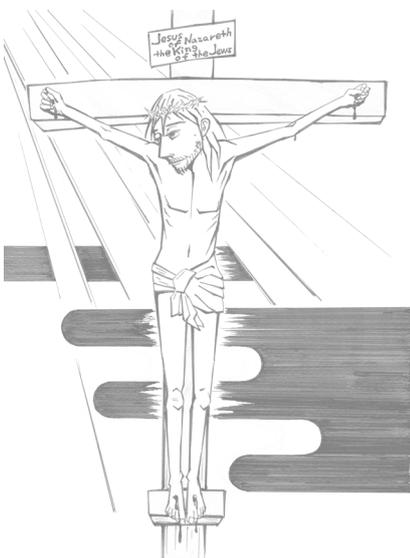
その後、Kさんは聖書の学びをしたいということで、マザーハウスに来ているシスターと色々お話をしてみましたよね。

K

今まで、一人で部屋の中で学んでいたこと、誰かに聞きたいことがあったのを、シスターを紹介してくださつたので、直接ぶつけることができました。自分のわだかまりが消えるので、本当に助かりました。

五

そこから、信仰を持つ持たないに関係なく、何人かと一緒に、月曜日の教会の勉強会に行きましたよね。教会で神父様から色々、聖書のお話を聞いて…。



NS50さん「十字架のイエス」

K

自分の中では…自分は聖書を読んできているじゃないですか、中で。だから、自分では学んでいるつもりでいる。それも傲慢なのかもしれないけど…。けれども、その人たちはもっと学んできていると思つていて。「大丈夫かな、ついていけるかな」つていう不安はありました。

五

マザーハウスでは必ず、出てきた方は聖書講座に行く決めてはいるんですね。行かない場合は、僕のところでは引き取りません。ただし、信仰を持つ持たないは、自由です。これは僕が決めることではない。何故、聖書を学ばせるかといつたら、以前、大学の講義に行つた時、法学部の先生に、「刑法の根本って何?」つて聞かれたことがあって。僕は「教えてください」と言つて、教えてもらったんです。日本の刑法は、ドイツから来ている。で、ドイツの刑法の土台は、聖書の十戒。殺してはならない、姦淫してはならない、盗んではならない、…(出エジプト記二十章)。それが、刑法の土台となった。じゃあ、犯罪をする人は、その土台をきちんと学べば、回復に繋がるんじゃないかなと、そう考えて僕は必ず聖書講座に行ってもらっています。

僕の中で、回復のポイントが一つあります。ヨハネによる福音書の八章一〜十一節です。イエス様のごころに、律法学者やファリサイ派の人たちが、姦淫の罪を犯した女性を連れてくることです。彼らはイエス様に対して、「こつていう女は石で打ち殺せと、モーセは律法の中で命じています。とつて、あなたはどう

うお考えになりますか」と、意地悪な質問をした。そしたら、イエス様はこう言ったんですね。「あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まず、この女に石を投げなさい」。罪のない人から、と。すると、一人また一人と立ち去ってしまつて、そこに誰もいなくなつた。それでイエス様が、「だれもあなたを罪に定めなかつたのか」と女性に聞くと、「主よ、誰も」と女性が答える。そこで終わるかと思つたら、違ふんですね。イエス様が言つたのは、「わたしもあなたを罪に定めなさい。行きなさい。これからは、もう罪を犯してはならない」と。「もう罪を犯してはならない」。もう犯罪をしてはならない。これは、キリストの命令ですよ。それを心にしっかりと受け取つた人間は、もうやりません。自分の天の父親が誰かつて本当に理解している人間は、同じ過ちを繰り返さうとは考えません。それを理解できないから犯罪をしてしまふと思うので、やはり聖書のメッセージをしっかり学んでもらうことが、僕は大切だと思ひます。ただ、その学びと信仰は別ですけれども。そういうことを学んでいる中で、Kさんはつい最近、嬉しいことがあつたとか。

K 昨日、このイグナチオ教会の神父様と面談がありました。洗礼を受けさせてもらうことになりました。四月に。自分にとつて洗礼は一つの目標だったので、とても嬉しかったですね。

五 その神父様と結構、色んな話をしたんですよ。

K しました。自分の過去の話から、今どう思っているか…聖書をどれだけ読んだかとか、そういう話をさせて頂きました。

五 やっぱ洗礼つて一つの区切りつていうか。僕は、M司教様から洗礼を受けるまでは…教会に毎日通つていた時、みんな御聖体を頂いていて、僕はもらえないわけです。食べたくなつてどうしようもなく、自分で買って食べちゃおうかなとか考えたけど、それはアウトなものですから(笑)…とにかく食べたくて仕方なかつたですね。何故それが食べたいかという、ある時、シスターから、「御聖体つていうのはキリストの体なんだよ。それを頂くつていうのは、キリストがあなたの中に生きて、一緒にいるんだよ」つて教えてもらつて。だから食べたいわけです。でも、洗礼を受けないと、食べられない。すごく食べたかつたことを強く覚えていきますね。

(来月号につづく…)



一兵さん

特別コーナー

このみやさをりさん 講演原稿

★今年三月、性犯罪をなくす会(チーム上谷)でのみやさをりさんが講演された内容をご紹介します(二十五年目にして初めて、公の場で自身の性被害についてお話をされたとのことです)。

どこまで行っても闇の中、
何もなかった日々に戻りたい、
これほど戻りたいのに戻れない

今日は、私のような者がこのような場でお話しする機会を設けて頂き、有難うございます。うまく伝えられるか分かりませんが、少しでも伝えられるよう努めますので、どうぞよろしく願ひします。

まず、私の被害ですが。一九九五年の二十四歳の冬に、信賴している職場の上司からレイプされました。その後、その上司から仕事の引継ぎを強いられる中、仕事を口実に性的関係を強いられ、数か月を過ごすという被害を経ました。

今、「被害」と言いましたが、私は自分のこの体験を、きちんと「被害だった」と認めることが、ずっとずっとできませんでした。最初のレイプはまだしも、それから数か月にかけて性的関係を強いられたことを、どう言えたいのだろう、こんなもの誰も信じてくれない、と、そう思っていました。去年、今の主治医やカウンセラーと出会い、その方々から、「あなたの体験したことは間違いなく被害なのよ」と言われて頂けるまで、私なんて、私に起きた事なんて、と、そう思っていました。だから、私が自分の被害をきちんと「被害」と自分で受け入れられるようになるまで、被害から二十年以上の時間が必要でした。

話を元に戻します。被害に遭って私にあらわれてきた症状がどんなものだったか、これについて、まずお話ししたいと思います。

自分は大丈夫、あんな事件、無かつたことできる、乗り越えられる、やっていける、大丈夫、大丈夫、と思っていたものの、やがて、徐々に徐々に心身が擦り切れてゆき、気がつけば、日常生活を営むことが困難になっている自分がいました。

或る日、いつものように書店営業に渋谷に出掛けた折、信号を渡ろうとした時です。あれ？と思ったり、信号の赤、青が判別できない自分がいました。そし

て気付きました。世界がモノクロになっていることに。愕然としました。世界の、ありとあらゆる色が失われているんです。赤も青も黄色も緑も。何もかもがグレートーンの中にありました。その場にガクリとしゃがみこむ以外に術がなかったことを、今もありありと思い出すことができます。そしてまた、向こうから横断歩道を渡ってやってくる人たちがみな、同じ顔に見えるんです。まるで仮面をかぶった何者か、でした。もはやそれは私には人間と認識できない、ただのヒトガタのバケモノでした。

以来、ほぼ十年の間、私はモノクロの世界の住人になりました。また、相手の喋っている内容はもちろん、自分の声が認識できない、相手の声が認識できない、現実感が薄れ、突然世界が別物のようになってしまふ、という症状もあらわれました。

もう少し詳しく話すと、例えば、周囲の人間が発する言語・音声、まるで宇宙人の信号のように聞こえてきたり、例えば、自分の声が自分の声とは全く実感できなくなったり。もちろん、声だけにとどまらず、眼も手も足も、この自分の身体全て、自分を取り囲む世界全てが、自分と切り離されてバラバラに、別個のものに感じられるようになりました。そしてやがて、嬉しいとか楽しいとか、悲しいとか憎らしいとか、そういった感情というものも失われていきました。何をしても、自分がぼっかり宙に浮いているかのような感覚に陥りました。

これは後で分かりましたが、酷い離人感に襲われてなるものだそうです。が、当時は分からなかったので、

とても恐ろしかったのを覚えています。でもその恐ろしささえもが、自分のものではないかのような感覚に陥っていました。

また、それまで普通にできていたことができなくなる、というものもありました。

例えば、雑踏を歩くことだったり、友達とただ話すことさえもが、できなくなっていました。何かをきっかけにして、事件当時の記憶が現在の中の雪崩のように雪崩れ込んできて、全身が硬直したり、酷ければ卒倒する、頭を抱えてしゃがみこむしか、術がなくなりました。そうやってみても、襲ってきた恐怖は去ることはなく、結局何も手につかなくなる、という状況でした。

それから、休むことができない。これも、あらわれて来た症状のひとつです。一度立ち止まってしまうたら二度と立ち上がれない、生きてゆけない、というような強迫観念に囚われてしまふのです。要するに、過去の事件に呑み込まれたら私は死んでしまふ、と、いうように思えて、とにかく追いかけてくる恐怖から逃れるため、「ひたすら何かをしていなければいけない」というような思いに雁字搦め(がんじがらめ)になっていました。そして、そういう時は大抵、呼吸困難に陥りました。心臓が驚掴みにされたかと思う程の、ぎゅうぎゅうした痛みが襲われました。

眠れない、というのは、これは事件に遭った直後からあった症状です。眠れば悪夢を見るといのは典型なのですが、そもそも眠りにつく、身体を横にするという行為ができなくなるんです。

身体を横にすることができないと、例えば歯医者にも通うことができなくなります。整形外科や内科にも行けなくなります。

そういう不自由がたくさん、これまでの私の日常を奪うかのようにやってきました。

現実感や時間感覚の喪失は、先にも少し触れています。改めて言うと、自分がどこにいるのか、何をやっているのかが、突如として認識できなくなるんですね。その一方で、平静に生活を営んでいる風に装う機能が働いていて、それ故になおさら、自分が両極に引き裂かれていくような感覚に、常に陥っているような状況でした。

また、これはたぶん、レイプされた人間は、誰もが一度は思うことだと思うのですが、私は、自分を汚物がゴミ箱のようにしか思えなくなりました。自分は穢れているとしか思えなくなり、もうこんなに汚れてしまったのだからどうにでもなれ、と、ヤケクソになってしまう部分も多々ありました。性犯罪に巻き込まれた人は再び犯罪に巻き込まれる可能性が高い、というのは確かにそうなんだと思います。ヤケクソになっているから、もうどうでもいいのです。自分に何の価値も見出せない上、穢れているとしか思えないし、全て自分が悪いなどとも考えているから、まさにどうにでもなれ！という状態になってしまうんです。自分を大切にできないと、とことんツボにはまっていく、という構図です。

強姦は犯罪です。にもかかわらず、その犯罪へ怒りを向けるより先に、自分を責めてしまうんです。と

にかく自分が悪い、自分のせいだ、自分のせいになってしまうしまったんだ、という具合です。

それから、身体の痛みも半端なく襲ってきました。過度な緊張状態に常に置かれている為、頭痛をはじめ、下腹部や足の付け根などに激痛が生じるんです。手足のしびれなどにも襲われ、鎮痛剤を持ち歩かなければ外出もままならなくなりました。それは今現在も、鎮痛剤服用の他、ブロック注射等の治療を定期的に受けなければならぬほどの痛みです。

こうした状態が、もはや、私の「日常」のようになりました。気付けば、仕事はもちろん、ただ起きて眠つてという日常生活さえ、営めなくなっていきました。私の日常は、もはや、どこにも無くなりました。それまでの私にとっての非日常が、私の日常となったのです。

途中、リストカットや過食嘔吐を繰り返すしかない時期もありました。毎日のようにリストカットを繰り返していました。痛いという感覚がないから、いくらでも切れるんです。深く切っても血が出ないと、いくらでも何度でも自分の腕を切り刻みました。血がどくどく流れ、床が血だらけ、タオルが血だらけになるまで切り続けないと、気が済まない。血で染まったバスタオルを見、はつとするんです。ああこんな自分にもまだ、人間の赤い血が流れてる、と。それは、私に安心を与えました。まだ私は人間なんだ、まだ、大丈夫だ、まだ、何とかやっていける、と思えました。だから、一時期の私には、リストカットをなすことは、なくてはならない行為でもありました。

そうやって一年、二年、三年…結局あの事件から一体どれほどの時が流れたでしょう。それでも、私の時間の感覚は狂ったままでした。人の言う一日は私の一日ではなく、何日も眠れないままなら、そのまま長い一日でした。

私が時間をそれなりに感じるようになったのは、何年かの話で、それ以前は、昨日も今日も明日も明後日も、ただただ一続きに続いていて、またそれは、どこまで行っても闇の中、何をしたらつてムダ、自分は生きていだけムダ、どこにいるだけ邪魔で、ゴミで存在価値など全くゼロ、まさにいるだけムダ、何もなかった日々に戻りたい、これほど戻りたいのに戻れない、もうどこにいたくない…と、心の中も頭の中も、ただただその繰り返しでした。

死にたくてしょうがないのと同じ分だけ、 かつての自分に戻りたかった

でも、私は今、悪戦苦闘しながらも、子供を二人産んで育てながら、日々を営んでいます。今でも思っています。私の浮上のきっかけは何だったんだろう、と。はつきり言って、それを今ここできちんと説明する自信など私には全くありません。皆無です。

でも今、私は少なくとも、昨日と今日の区別をし、今日と明日をちゃんと区別し、子供の泣き声に追い掛けられながら、時にパニックに陥り、時にフラッシュバックに襲われたりしながらも、それでも、いそいそ

るわけでもないし、そもそも今の私はもう、戻したいとは思わない。もし下手に時間を戻してしまつて、それでまたあんな事件に遭つたとして、今度は「こま」で生き延びてくれるかどうか。それを考えると、苦笑とともに、やっぱり戻らない方が無難だな、と思わず呟いてしまう自分がいます。

治りたい、と思つていた時期も長く長くありました。でも、PTSD（※心的外傷後ストレス障害のこと）や解離性障害なんていうものは、一度背負つたら、そう簡単に症状が良くなるわけじゃないです。いや、もつと言つながら、治らないと思つた方が無難です。私はパニックやフラッシュバックの泥沼の中、もう治らないんだ、どうせ治らないんだ、何をやつたてムダだと、何度ヤケになつたか知れませんが、でも、治らないと思うと、また別の考えも出て来るものなんです。治らないけど、症状を適当にうまくあしらう方法はあるんです。

例えば、まだトラウマとなつて居る事件を彷彿させるような事柄とは距離をおく、とか、置けないまでも、それらとかち合つてしまつたらパニックになるわけだから、じゃあどうすれば、よりうまく避けて歩くことができるか、とか。あくまで私の場合ですが、PTSDや解離性障害なんていうものは、もう治りやしないんだ、一生お付き合いするんだわ、と、あの意味諦めてみた時点から、少し自分が変わつてきました。

(…来月号につづく)

わちみみしおコーナー

寝ても醒めても

あなたは、寝ても醒めても何かに夢中になつたことがあるだろうか。

恋人に思い焦がれて、夜も眠れない、昼はボーっとして何も手がつかない。不眠不休で一心不乱に受験勉強に集中。寝食を忘れるほどカーッとなつて目前の仕事に没頭。私にもそんな経験がある。

一つことに夢中になつて居るから、何も心配したり、思い煩ったりしない。心が満たされて、時間が経つのも忘れて居る。ああ、このまま永遠に続いて欲しい。でもそれらは皆、短い一時的な体験で終わってしまう。

ある時、地方の教会から、日曜日の礼拝メッセージを頼まれた。その時の私は、大きな試験が続く、思うように物事が進まず、どん底の状態だつた。こんな陰鬱な思いで、一体、何を話したら良いのだろうか。

当日の朝になつてもメッセージが決まらず、行ききの電車の中で悶々として聖書を読んでいた。すると、次々に聖句が心に飛び込んできた。

「主が私たちのために死んでくださったのは、私たちが、目ざめていても、眠つていても、主と共に生きるためです」(第一テサロニケ五章十節)

…そうだ、イエスが十字架に架かつてくださったのは、私が、寝ても醒めてもイエスと一緒に生活するためなんだ！

「あなたの前には満ちあふれる喜びがあり、あなたの右には、とこしえにもろもろの楽しみがある」(詩編十六章十一節)

…そうだ、イエスと共に生きるとは、満ちあふれる喜びを大いに喜び、いろいろな楽しみを永遠に楽しむことなんだ！

「主を喜ぶことは、あなたがたの力です」(ネヘミヤ八章十節)

…そうだ、イエスを喜ぶことによつて、私の内からイエスの生きる力が湧いてくるんだ！

「あなたがたは、主にあつて、いつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい」(ピリピ四章四節)

…そうだ、イエスと共に生きることにより、どんな状況にあつても、いつも喜ぶんだ！

どん底に居るのに、私の心から喜びがとめどなく溢れてきた。

それ以降、生活の中で、喜びの賛美が止まらなくなっていました。

朝、目が覚めると心の中に賛美がわき起りつてくる。まるでBGMのように止まらない。夜、眠りに落ちるまで断続的にそれが続く。時々、夢の中でも賛美している自分がある。外を歩いている、喫茶店で聖書を読んでいる、電車に乗っても、仕事の合間合間に、賛美が止まらない。イエスの素晴らしさを讃え、イエスと共に生きることを喜び感謝する歌詞と軽快なメロディが次々に即興で思い浮かんでくる。イメージの中で賛美なので、自分でギターを弾いたり、キーボードを打ったり、ドラムを叩いたりしながら、思いのままに演奏できる。それがまた実に楽しい。

私の事務所のあるビルにたどり着いても、賛美を止めるのがもったいない。しばらく大勢の通行人を観ながら、心の中で賛美している。そのうち群衆に向かって、マイク片手に大声で叫ぶように主を賛美している。この喜びを、声を大にして証したい！理性で押さえなければ、本当に大声で路上賛美をしてしまいそうになる。

先日は、深刻な刑事裁判の法廷でも、心の中で賛美が止まらなかった。まるで、ミュージカルで刑事弁護人を演じているような気がした。

「いちじくの木は咲かず、ぶどうの木は実らず、オリブの木は産はむなくなり、田畑は食物を生せず、檻には羊が絶え、牛舎には牛がいなくなる。しかし、わたしは主によって楽しみ、わが救いの神によって喜び」(ハバクク三章十七〜十八節)

理事長の奥さんによる 育児日記

ふざけてA君が、次女のRちゃんを抱っこしたまま一緒にトイレに入り、鍵をかけてしまいました。するとRちゃんが、「出たい」と言わんばかりに、ドアを叩きながらギャーギャー泣いていたので、「出てきてー！」と私が言うのと、A君も泣きながらトイレから出てきました。「どうしたの！？」と聞くと、「Rちゃんにいじわるするのはよくないとおもったの、ごめんねー！Rちゃん(泣)」と悔い改めていました。トイレで何が起ったのか、不思議です！

夕飯を食べている時に、長女のKちゃんが「きょうパパとねたいな」と言ったので、「パパのこと好きなのに何でチュウしないの？」と聞くと、「よだれがつくから」と言ったので、思わず笑ってしまいました。「Kちゃんがチュウしたら、パパ喜ぶよ」と言うと、「わかったよーきたないけど」と言っていました(笑)。ですが、その後も全くチュウをさせてくれず、少しパパがかわいそうですが、Kちゃんのパパの扱いは、間違いなく母に似たものです(笑)。

Rちゃんはいっぱいチュウをしてくれますが、いっぱいよだれがつきます。A君は「Rちゃんよだれ食べられる！」と言って、みんなから愛されています♡



塀の中のたよみ

―受刑者からのお手紙―

私にとっての人間関係のコツ

H・Kさん

ここに来て、人間関係のあり方について本当に学びました。相手の立場となつて物事を考えて行動することで、視野が広がり、物事に対して冷静に判断・行動したり、言葉を使ったりすることができるようになります。不思議とイライラや感情が高ぶることが少なくなり、自分を抑えられることがあります。

一人ひとりの人と接することで、自分が変わったところに気付く、それが成長とともに自信となり、人と接することが苦手だった以前の自分では考えられないほど、人と接することが好きになりました。十人十色、色々な人と接して話をする中で、この人

はこんなタイプだから、自分はこうして接してみよう、話してみようとか、相手の立場になって自然と考えられるようになり、今では、全く知らないタイプと接することで、得した気持ちになります。

今の自分に無くてその人にあるものを吸収したりして、どんどん、人としてのあり方について学び、苦手だったタイプの人も積極的に接するようになりました。苦手だった対人関係を克服することで、人と関わるのが好きになり、また、相手によつて自分の言葉や行動を変えることができるようになりました。最近では、それが自分らしく伸び伸びと生活できるコソの一つになっています。

そして、未決者や受刑者たちの髪をカットする理髪係という責任ある仕事もやらせて頂いています。工場担当のオヤジ(※刑務官のこと)さんも、理髪係の担当のオヤジさんも、自分を信じてチャンスを開けていることに、本当に心から感謝の思いでいっぱいとなり、今はとにかく、自分と関わる人たちに感謝して、配慮の気持ちと謙虚な気持ちを大切に、日々勉強で、自分に少しずつ自信をつけられるよう、努力させて頂いています。

今を生かされている自分が、命をかけて、人の役に立てる行動をすることで、そこから、やりがいだったり生きがいだったりを、身をもって実感できるようなものだと思います。人は、命の大切さや、時間だつたり生活だつたり、人と関わることの大切さ、それに気付くことで、生きるこの意味や、自分が何をすべきか、自然と分かるのだと思いました。

金持ちとラザロ

O・Kさん

私が聖書を真剣に読むきっかけになったのは、ある本に書いてあった「金持ちとラザロ」(ルカ十六章十九〜三十一節)の解説を読んだからです。

それまでも一通り聖書を読んだことはあつて、この話も覚えていました。私はこの話を読んで、「自分の死角にいる人で、困っている人、貧しい人、苦しんでいる人を助けてあげなさい。さもないと地獄に落ちますよ」と解釈していました。間違いではないのですが、この話にはもっと深い意味が隠されていました。

それは、「天の国では、アブラハムはラザロの名前は知っているけど、金持ちの男の名前は知らない」という事実です。

生前、ラザロは辛く苦しい生活を送る中で、一日に何度も何度も神に祈りを捧げてきたことでしょう。一方、金持ちは、欲しい物は何でも手に入るの、神に祈る回数も熱意も少なかったことでしょう。その結果、天の国では、ラザロの名前は知れ渡り、金持ちの男の名前は知られなかった。生きていた時とは、全く逆になってしまった。というような内容でした。

これこそ、本当に目からウロコが落ちたような思いになりました。これをきっかけに、聖書をよく読むようになりました。

嗚呼、サラバ集会

御禿様さん

我が社(工場)で、由々しき事態が勃発した。ある受刑者の私物に、作業で使う薬品が混入されたのだ。これは単なるイタズラではない。人間関係のもつれからくる、立派な「争い」だ。しかも、「多数対独り」のだ…。詳しく書けないのが非常に残念だ(大人の事情で)。

今、この原稿を書いている時点で、事件発生から一週間が経過している。犯人は特定されていない。決定的な証拠が無いのだ。恐らくこのまま、うやむやになるだろう。

犯人が出てこなかったのは残念だったが、それ以上に、「他工場にまで迷惑を掛けてしまった」ことが非常に心苦しいのだ。どういふことかと言うと、我が社が起こした事件がきっかけで、各工場を取り扱う物品の管理方法が厳しくなったのだ。他工場に従事している受刑者の方々に対してはもろろんであるが、関わった全ての職員の皆さんに対しても、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。親方という立場を辞することも考えたのだが、「君はやっていないんだから、そこまですることはしない」と、仲良くさせてもらっている同囚から止められてしまった。

しかし、「このままでは気がおさまらない。そこで私は宣言した。」今の工場にいるうちは、全ての集会を



河童さん「はじめまして！よろしくね」

辞退する」と（もちろん、集会出たさに懲罰をくらって他工場へ行く気など、毛頭ない！）。

まあ、正直言いますと、こんな悪質なことをする人がいる工場にはいたくないのだが、それも言っていない。自分の職責を全うしなければ、という強い気持ちもある。

しかし、それにしてもショックです。我が社にこんなことをする人間がいたなんて…。絶賛、疑心暗鬼中でございます。読者の皆さんにはこんなことが起らないよう、祈っております。

（追伸）

youすずmeさんへ。私も一月の「ノロ事件」（※たより三月号 十九〜二十ページ参照）の被害者です。泣く泣く「カントリーマーム」を半分ほど残しました（苦笑）。

刑務「仕事」

1854さん

より深く己の内面と向き合い、更なる更生に資する為、私は童話や俳句、短歌、エッセイ等の文芸作品を創作し、各種公募に投稿を行っています。

そして、その拙作の一つが、「公益財団法人勤労青少年躍進会・一般社団法人日本勤労青少年団体協議会主催 若者を考えるつどい二〇一八『働くってなんだろう』エッセイコンクール」にて、「奨励賞」を受賞致しました。指定された三つのテーマの中から、「仕事を通じて、こんな夢をかなえたい」というテーマを選択し、「刑務仕事」と題して、今行っている刑務作業についての想いを綴ったこのエッセイですが、入選作品集に掲載され、ホームページに公開されたところで、私が真に想いを共有したい、読んでもらいたい、と考えている受刑者の方々の目に触れることはありません。

そこで、この度、たよりに掲載頂ければと考え、筆を執らせて頂きました。拙作をお読み頂き、皆様の刑務作業に対するモチベーション等が少しでも変化し、皆様の更なる更生に少しでも資することが出来ますれば、これに勝る喜びはございません。

（←本文。原文ママ）

☆

「お前がこれからするのは、仕事だ。くれぐれも、仕事と作業を履き違えるなよッ！」

新社会人、初日。教育係として私に就いてくれた先輩の第一声が、「この言葉だった。」

・仕事：する事。しなくてはならない事。特に、職業・業務を指す。

・作業：肉体や頭脳を働かせて仕事をする事。また、その仕事。（広辞苑より）

語意自体に大差は無さそうなの二つの単語に先輩が込めてくれた想いを、当時の私は右から左に聞き流していたのだが…十余年経った今、故あって私は先輩のあの言葉の意味を、作業しながら考え続けるようになった。

私が現在も行っているのは、文字通り、作業である。すなわち、刑務作業。懲役受刑者の義務として…誰にでも出来る本当に簡単な、作業。創意工夫の余地も無く、それどころか定められた手順を逸脱すれば（創意工夫なんかしようものなら）、「指示違反」として懲罰にさえなりかねない、作業。頑張っても怠けても、平等の名の下に、受刑者達の処遇にほとんど影響を及ぼす事の無い、作業…

だから大多数の受刑者は実際に手を抜いているし、私も、真面目に作業するなど馬鹿らしいとさえ考えていた。あの日、までは…

服役直後から私は、自分で自分を終わらせる気であった。それしか罪を償う方法は無いと考え…嘘だ。本当は、ただ逃げ出したかっただけだ。全てを失ったという事から。罪を償い続けなければならぬという事から…

しかし、およそ七年前の、私が服役してからちょうど一年後。元妻が、面会に来てくれた。まだ幼かった一人息子を抱いた彼女は、アクリル板越しに、私に、「こう、言ってくれた。

「例え私と貴方が離婚して、赤の他人に戻ったとしても……この子と貴方の血の繋りまで、無かった事には出来ません。この子が大きくなつたとき、私は、実の父親である貴方の事を、この子に話します。そのとき、この子はきつと激しく怒り、そして、酷く悲しむはずです。貴方の事を、決して赦さないかもしれません。でも、いつか、実の父親である貴方に、逢いたいと考えるかもしれません。そのとき、あなたが自暴自棄になつて更に罪を重ねるような生き方をしていたり、あるいは、全てから逃げ出していたならば……この子は、どう思うでしょうか？その事をどうか忘れないで、この子の為にも、どうか、生きて、罪を償い続けて下さい。子供は、親の背中を見て、育つただから」と……

その日から、私は、変わった。生きて、本気で罪を償い続けていく事を、更生し続けていく事を、元妻に、一人息子に、誓った。

しかし、どうすれば罪を償う事が出来るのか、更生する事が出来るのか……皆目見当もつかなかった私は、とにかく、毎日を真摯に、精一杯、生きる事にした。手始めは、刑務作業。こいつにも、本気で、取り組んでみた。

すると不思議なもので、退屈で苦痛であった刑務作業にさえ、遣り甲斐が生まれた。それに伴い、立

役（作業を監督・指導する立場の受刑者）や刑務官からも、劇的には無いにせよ、少しずつだが、確実に評価もされ始めた。

そして、先輩からもらったあの言葉の意味が、今更ながら、臆気ではあるが、解ってきた気もする。つまり、作業とは、受動的。人にやらされている事であり、仕事とは、能動的。自分から進んで行う事である、と考えるようになった。

確かに、私が行っている事は刑務作業であり、実社会で仕事をしている人達からすれば、笑止千万なのだろうけれど……それでも私は、この刑務作業を仕事として捉え、励んでいる。この仕事を通じて、私には叶えたい夢があるのだから。

私の夢は、この刑務仕事を通して更生に努め、一日も早い社会復帰を果たし、社会で仕事に就き、働きながら、生きて、更生に努め続けていく事である。もう二度と逢う事は無いのかもしれないけれど、もしも、いつか、再会が叶うのなら……

一人息子の、眼を、真つ直ぐ見る事が出来るように。

【※編集局追記……一部、以前のたよりで掲載済の部分が含まれますが（たよりの二〇一七年三月号、十四ページ右側を参照）、テーマや本文が大分異なるので、そのまま載せました。】



I・Sさん

世間より少し長めのゴールデンウィーク

I・Hさん

新元号、令和となつて十日が過ぎました。当所でも、四月二十六日～五月六日の十一連休となり、長い地獄の休みとなっていました。

四月二十六日は、当所では教育的処遇日となり、作業は免除され、更生教育プロジェクトとして教育を受けました。これは全受刑者が対象となります。九～十六時は、課題作文や、ラジオによる教養録音教材の視聴、教養VTRの視聴、宗教教誨、クラブ活動、個別的教育などをして過ごします。その中で、課題作文、録音教材又は教養VTRの感想は、必ず記入して提出しなければなりません。また、九～十六時の間は、娯楽本を読んだり、話をしたり、新聞・手紙を読むことは禁止されています。手紙書きもNGです。録音教材や教養VTRは必ず視聴し、その間は、読書等は禁止されています。その時に視聴しなかった場合は違反行為とすることがあり、懲罰の対象となります。ただし、十二～十三時の一時間は休憩時間ということで、娯楽本、新聞、来信、手紙書き等、禁止されていることをするのが許可されています。

この教育的処遇日は、作業をしない為に、受刑者間及び職員間では「休み」という認識になる為、私たちにとっては、今年のゴールデンウィークは十一連休です。この間はつと舎房内生活となります。

受刑者によって受け取り方は違いますが、私は、部屋でじっとしているよりは、作業をして体を動かしていた方がとても良いと持っています。社会にいた頃も、日中は普通に正社員として仕事をした上で、夜は週に三、四回はアルバイトとして夜勤の仕事をしていました。ですから、私にとっては、十一連休は地獄でした。テレビは九時〜二十時五十五分の間、自由に視聴することができましたが、私にとって興味のある番組はないので、ニュースとワイドショーを見たくらいで、ほとんどテレビを消して、キリスト教関係の本を読んでいます。

相手が大人だからトラブルにならない

(同じく、) I・Hさん

私の工場には、「俺は仮釈放を目指している」と言っている人がいます。

それはそれで良いと思うのです。ですが、私を始め、周りで見ている人は、その人の言っていることと行動が合っていないくて、上辺だけだと思っています。「仮釈放を目指している」と言っているのに、他人に干渉し過ぎたり、他人を見下した言い方をしたり、不正をしたり…皆知っています。

確かにその人は無事故で生活をしてきていますが、それは相手が大人になっているからトラブルに発展していないだけ、ということこそを本人は何も感じていないのだからと思います。

私の一日の始まりと終わり

I・Nさん

初めの頃などは、聖書を棒読みのように読み、ただ単にお祈りをしていただけでしたが、今は、聖書を読むのは無論ですが、寝ていても、急に目が覚めては、お祈りをしないと朝を迎えることができないようになってきているのです。そして夜は、就寝のチャイムで部屋の電気が消されるのですが、それから私はお祈りを始めて、約三十分〜一時間ほど、心の中の思いを神様に話し、その後には寝ます。

朝は、炊場工場の者たちが起きて出て行くのが四時半頃なのですが、私が目覚めるのはそれより二時間ほど早く、炊場が出て行く頃には、お祈りも終わっているほどなのです。そんな朝ですが、祈りの方は、やはり、神様への話は絶対というほど一時間以上になります。今となつては、「この祈りが無いと一日を始めることもできず、終えることもできないのです。それだけ、私にとって大切です。

ただ、昔の工場であれば、グループ教誨にこそ参加することが叶いませんでしたが、個人教誨には参加できませんでした。しかし、今の工場では、個人教誨にも、なかなか参加することが叶わないのが残念です。その分、と言うとおかしいですが、百万人の福音や、幸いな人、聖書などを読んで、一人、礼拝を行っています。

川柳

藤さん

- ・ 担当も マスクをしては 刺激せず
- ・ 叱られた ことは忘れぬ 墓参り
- ・ 洗面後 顔にワックス ニベアかな
- ・ スマホのみ 聞えなくなる 若い耳
- ・ 鉄格子 すべてを奪う ことできぬ
- ・ M刑の サンダル変わり 私物並

俳句

Y・Aさん

- ・ その胎に 照りたる愛や 告知祭
- ・ 忍屈や 道守るらむ 受難節

ブログ : <https://ameblo.jp/npo-motherhouse/>

理事長の奥さんによる

Lovely DAYS

派遣で働いている当事者のOさんが、シール貼りのお仕事に行ったそうです。ひたすらシールを貼っていたら、通常一万枚貼れば凄いらしいのですが、Oさんはなんと、二万五千枚貼って、記録を塗り替えたそうです！刑務作業経験が役に立った上に、手当てでもらえた、と喜んでいました。

プリズムアート倶楽部

専門インストラクター ニロ先生による

★模写を用いて、色々なことを表現してみよう！
というコーナーです（今号スタート）。刑事施設に
る方向けに、身近にある道具で手軽に始められるも
のとして、「ボタニカルファインアート技法」による絵
画の模写を主に上げる予定です。なお、**当技法
の習得を目指すものではありません。**

1. ボタニカルファインアート技法とは…おのあ
きき氏が考案し、可憐な自然の草花をモチーフにし
た、小さなアートです。細いペンで描くラインは、と
ても繊細で、描く事に深く集中できます。自然のモ
チーフは、本物の植物と同様に、生き生きとした、
エネルギーを感じさせてくれます（ボタニカルファイン
アートの資料より一部抜粋、一部文章を付加）。

2. 当技法の利用例…日記に絵を描いたり、文通
時の挿絵にしたりするなど、趣味の範囲で楽しむ（※
当技法で描いた絵の販売や、講習の開催等は、正
しい講習の受講等が必要となりますので、**このコー
ナーでの模写を通して、当技法として、他人に講
習すること、作品を発表することはNGです。**あ
くまで、個人で楽しむ範囲で利用してくださいね）。

3. 注意点…規定上、当技法の正しい描き方をたよ
りでお伝えすることはできません。体験として、模写
して楽しんでみてください。また、**毎月、模写の投
稿（アレンジOK）を募集します**ので、文章での
表現が苦手な方、絵に挑戦したい方、お待ちしてお
ります（※投稿作はマザーハウスのホームページや担
当者のSNS等に掲載される可能性があります）。

★当技法を使用した作品の発表を考えている方
は、必ず相談ください（なお、講習はNGです）。

7月号：「夏とひまわり」



【解説】ボタニカルファインアート技法とパステルアートのコ
ラレーションで描いています。パステルとは、クレヨンと違
い、油の成分は含まれず、粉末顔料を粘着剤で、固めた
ものです。刑務所内では、使える文具が限られていると思
いますので、パステルは使わなくても結構です。

ボールペンや鉛筆等の、比較的、入手し易い文具で描い
てみてください。ボールペンで描く場合、ボールペンは、P
ーロット（パイロット）の細いペン等が推奨されているメーカ
ーの一つですが、描きやすいボールペンなら、何でも良いと思
います。鉛筆は、形が見やすい様に、B以上の鉛筆で濃
く描くと、質感も柔らかく、描きやすいと思います。H
BやH等ですと、固い質感の為、描きにくいかと思えます。
文通をされている方は、見本の絵を色々アレンジして、
便箋や封筒に描くと、楽しく可愛いアクセントになり、文
通相手も喜ばれるかと思えます。

♪描き方のコツ

↓大きいひまわりの花びらの先端は細く描き、中心に向
かって、丸みを付けながら描く。小さいひまわりは、全体
的に、先端も丸みを付けて描く。葉っぱは丸く、蔓（つる）
は曲線で、優しい雰囲気描く。形は、ハンドペイントの良
さを生かして、不揃いでも、何でも構いません。

見本の絵と全く同じではなく、アレンジして、楽しく描
いてください。絵は、自分の中のイメージを表現する事が
大切なので、自由に、楽しみながら、表現されてください。

以上

★コーナータイトル「プリズム」の由来

↓監獄（プリズン）と、プリズム（滑らかに研磨された平
面を二つ以上もつ透明体で、光を分散・屈折・全反射な
どさせる性質をもつ。また、この透明体を通った光、ある
いは、それに似た美しい光のこと）を掛け合わせて、「闇か
ら光へ」という意味を込めています（原案：ささきみつお）。
マザーハウスの定期講演会（VIPプリズム）等の名称にも
使われています。

★担当者：ニロ孝絵（ふたくちたかえ）

↓3色パステルアートインストラクター（日本心理療法協
会認定）。3色パステル画寺子屋（ぐんま教育文化フォー
ラム内 絵画教室）代表。「パステル画を中心とした
アート（芸術療法）講習をしながら、みんなの居場所作
り（絵画教室・寺子屋）をしています」（ホームページ：
<https://atelier.yururitoironkonaka.localinfo.jp/>）。

看護師 中谷先生による

健康相談窓口

認知症の種類・症状

暑くなつて来ましたが、皆様、体調を崩されたりしていませんか？

私は、六月二十七日から七月二日まで、シンガポールで開催されたICN国際看護学会で、皆様に以前アンケートをさせて頂いた結果を発表して参りました。つたない英語でやり取りをしてきました。世界のどの国においても、矯正施設に関する健康問題を取り上げた発表はなされず、フィリピンの大学の先生から質問されました。「なぜ、国ではなく、あなたがこの研究をしなければならぬのか？きつかけがあれば教えてください。フィリピンの刑務所は、毎日ミサがある。教育も充実している」と、このような内容だつたと記憶しています。私は、「私がなぜ、矯正施設の健康問題を取り上げるのかについて、理由はただ一つです。医療職の誰も取り上げていないからです」と、文法が合っているかどうかは不安ですが、伝えてきました。

世界に対しても、この問題に関しては、アピールするように努力していきます。皆様への報告書は現在、最終段階です。ちよつと変わった分析法を用いています。七月末までには完成させますので、お待ちくださいませ。

さて、前回、認知症の診断方法についてお伝えしました。今回は、認知症の種類や症状について説明します。

はじめに、認知症と言われる条件について、次の三つが挙げられます。

- ① 一度獲得した知的機能が、何らかの原因によって低下すること。
- ② 知的機能の低下によって、社会生活や家庭生活、職業上で支障をきたすこと。
- ③ 意識障害がないこと。

次に、認知症の中核症状として、記憶障害(物忘れ)／見当識障害(日時・場所が分からない)／失語(言葉の障害)／失行(行為の障害)／失認(認識の障害)／実行機能障害(日常生活ができない)。(例)排泄の手順：トイレの場所、扉の開け方、ズボンのおろし方、便座への座り方、排尿後の処理、手洗いの仕方などが分からない)があります。

周辺症状としては、陽性症状(幻覚／妄想／徘徊／過食／独言／暴力／不眠など)、陰性症状(うつ状態／自発性の低下／意欲の減退／無関心／無言など)があらわれます。

最後に、認知症をきたす主な病気を紹介します。

★**アルツハイマー病**…六十五歳以降に多い。物忘れが始まることが多く、進行性の疾患で、時間とともに徐々に症状が悪化する。記憶障害の他、計算が出来ない、家に帰れない、季節にあつた衣服を選べない、などの症状が見られる。最大の特徴は、日常生活でできることが少しずつ減っていくことである。また、自身が病気であるという認識に乏しい。

★**脳血管性認知症**…記憶障害よりも、日常の実行機能あるいは操作機能の障害が目立つ。思考の緩慢化も特徴。知識が失われているのではなく、脳内の知識の貯蔵庫に到達してから知識を引き出してくるまでに時間がかかる。また、自発性の低下や意欲の減退、周囲への関心の低下も、しばしば見られる症状である。他に、怒りっぽい、涙もろい、些細なことで大声をあげる、などの感情障害もみられる。

★**レビー小体型認知症**…わが国では見逃されることが多い。症状の特徴として、記憶障害、幻視、幻覚、幻聴、パーキンソン症状、時間的変動(＝症状の変動が大きい)がみられる。良い時と悪い時の差が大きい。これらの特徴の二つ以上がみられる。抗精神病薬の使用によって症状が悪化することがある。

以上、それぞれの認知症に合わせた治療や看護が必要とされています。今回は、認知症のケアに関してお伝えしたいと思います。

つばやき!

THE BOOMの「島唄」という歌の歌詞の一部に、「このまま永遠に夕風を」というフレーズがあります。この島にもう波風を立てないでくれ、という沖縄県民の叫びに涙が出る今日の頃。(一兵さん)

私には、ワキガがあり、気にしています。暑くなってくると臭ってきますので、制汗剤を使うのですが、九百円ぐらいで高くて、なかなか思うように買えない状況です。そのせいで過去、イジメに遭ったりしたので、心配しています。(O刑 Sさん)

一つだけいつも感じることはありません。それは、私の親しい知人も含めて、支えてくださる多くの方々にかげられる、「体制側から虐げられているだろうけど、我慢してください」という言葉についてです。私としては、そう言われることで、刑務所の中にいるという(壁のような)ことを強く意識してしまうので、普通の社会の人と同じように話をしてくれたらいいのにな、いつも思ってしまうのです。(H刑 Oさん)

たより等が送られて舎房に入るが、翌日には多くの書籍やたよりが(新品のまま)廃棄処分に出されている、とのこと。もったいないのもそうですが、人にもしてもらった行為、人が何かをしてくれることは、決して当たり前ではないと思います。なので、その人たちの分も、私がじっくり拝読します。(N刑 Sさん)

みんなの! 回復プログラム 入門

★受刑者の方より寄せられた、回復プログラム入門の内容をご紹介します(誤字脱字以外、原文ママ)。

テーマ

- ①昨日の出来事で私が嬉しいと感じたことは何ですか。
- ②何故、私は嬉しかったのでしょうか。
- ③その時の私の心には、「嬉しい」以外にどんな感情がありましたか。

①ソフトボールの練習方法について、若い人が(監督の)私に相談して来た事。

②協力してくれる意思があるからこそ、自分から考えて、積極的に相談してくれた。

③是非このチームの皆と、良い結果を掴み取りたい気持ちが昂(たかぶ)った。(C刑 Sさん)

①工場のトイレに置いてある洗濯機は、毎日使っているのですが、昨日、操作ボタンを改めて良く見ると、ボタンの横に「点字」があるのに気付く、ナント、それがすらすらと読めたこと。

②数年前から独学で「点字」を勉強していて、インクで印刷したものしか見た事がなく、初めて実物の「点字」を発見したから。しかも、実際に読めた。ちなみに、電源の「ON」「OFF」は点字で「オン」「オフ」とは書いておらず、「イリ」「キリ」と書いてました(笑)なんでだろう…。

③こんなに身近に「点字」があったのに、ずっと気付かなかったとは…(汗)もつとつと、「点字」の知識を深めて、出所後は、社会福祉のボランティアを頑張るぞ!!そして、一人でも多くの人に「点字」の勉強を勧めて、盲者の福祉活動に参加して欲しい。(山の中のジョンさん)

①先日ソフトボール大会一回戦がありまして、勝利したことで。

②子供時代より球技が大好きで、スポーツばかりしていたこと。あわやホームランと思うようなヒットが打てたこと!

③チームのみんなの力になれた喜びがとても嬉しかった。昨年・一昨年とヒットが打てず、迷惑ばかりだったのに、今年も選手に選んでくれたチームのみんなに感謝です。(O刑 Tさん)

①休日はいつも昼寝してしまうのに、その日は勉強意欲がまさり、勉強(簿記二級)時間が多くとれた事。

②最近は勉強量がへっていて、親に勉強してると言っているのが嘘ついているように考えだしていたから。

③勉強では試験タイプのテストをしたが、自分では「出来る!」と思っけていても、答え合せをしたら自信があった所が間違えていたので、「もっと理解力をつけなければ」という反省があった。(O刑 Iさん)

①手術が無事に済んで、人の優しさに助けられたこと。

②獄に在る身なのに、医師も看護師達も皆、へだてなく優しく接してくれたから。

③主が私を守ってくださっている!(M刑 Sさん)

①聴きたい曲が、かかったこと(あいみょん/春の日)。

②曲を憶えてカラオケ、歌のレパートリーが増えるから。

③自分も上手くうたえたらいいな(聞いた人が感動するような)。(K刑 Mさん)

回復プログラム 入門

★このコーナーでは、「いきなり回復プログラムにしっかり取り組むのはハードルが高い…」と感じる方向けに、「入門編」として、自分の心を書き出す練習をします。回復プログラムに既に挑戦しておられる方も、ぜひ取り組んでみてください。

コツ 綺麗に書こう、丁寧に書こうとせず、リラックスして、出てきた思いをそのまま乱雑に書き出す。

後でやろうと思わず、一行書いただけでも、今やってみる（下の枠（看板イラスト）をお使いください）。

補足 よろしければ、書いた内容を事務局にお送りくだされば幸いです（たより掲載の可能性もあるので、掲載を希望しない方は掲載不可と明記してください）。

【7月号のテーマ：叫びたくなる時】

- ① 最近、私が最も「叫びたい！」という気持ちになった瞬間はいつですか。また、それは何故ですか。
- ② その時、好きなだけ叫べたら、何を叫んでいましたか（当時の気持ちで）。
- ③ 今、当時の自分に声を掛けるとしたら、どのような言葉を掛けますか。

ご支援 本当にありがとうございます！

5月16日～6月15日の寄付金

合計：182,108円

（内 愛のプリズム宣教基金：13,000円）

お知らせ・編集後記

お読みくださり有難うございます！

皆様、お気づきでしょうか…ページをめくるにつれ、ぎゅうぎゅうになっていくことを…。最近、愛用しているのは、文字を若干平べったくして詰める機能です（この微妙なはみ出しを何とかしたい！という時にすごく便利です☆）。今号は特にお世話になっています！

コーナーや投稿が増えてきて、賑やかになってきましたが、少し残念なのは、イラストスペースが取れないことです。せっかくなので、送ってくださった絵はなるべく全て載せたいのですが…誌面スペース、インク量などを考えると…なかなかの難問です…！

★聖書を希望する受刑者の方は、郵送料800円分の現金書留または切手を、「聖書希望」と明記したお手紙と一緒に送りください。

それでは、来月号もお楽しみに！

編集局

行事予定

▼7/18 12:30～

北沢タウンホールにて、世田谷保護司会で、
講演「人生を変える出会いの力～闇から光へ～」

▼7/22 15:30～ 県立埼玉大学にて、講義

▼7/25 横浜市再犯防止推進法検討委員会

▼7/27 14:00～

聖イグナチオ教会内 岐部ホール404号室にて、
対談「キリストのまなざし」（VIPプリズム）

▼8/6 17:00～ 龍谷大学にて、APS研究会（in 京都）

▼8/7 18:00～

マリア・カフェにて、当事者ミーティング（当事者のみ参加）

▼8/12～13

カトリック徳島教会にて、講演会
「人生を変える出会いの力～闇から光へ～」（高松教区主催）

マリアコーヒー (ルワンダ・コーヒー)

* 製造から販売まで、元受刑者が携わっております。

FAX : 03-6659-5270

メール : maria_coffee@motherhouse-jp.org (QR →)

価格 : 粉200g または 豆200g …… 900円+税

カフェドリップ10g (1回分) … 100円+税



☆継続して購入・販売してくださっている皆さま(順不同)☆

カトリック茅ヶ崎教会 / カトリック北仙台教会 / カトリック所沢教会 / カトリック浜松教会 / カトリック東山教会 / カトリック布池教会 / カトリック菊名教会 / カトリック中和田教会 / カトリック新子安教会 / カトリック碑文谷教会 / カトリック桃山教会 (平和環境部) / カトリック東仙台教会 / カトリック春日部教会 / カトリック足利教会 / カトリック神田教会 / カトリック松戸教会 / カトリック太田教会 / カトリック大分教会 / カトリック西千葉教会 / カトリック下井草教会 / カトリック新潟教会 / カトリック多治見教会 / カトリック芦屋教会 / カトリック鷺ノ宮教会 / ドン・ボスコ社 / クリスト・ロア宣教修道女会 / 日本カトリック神学院 / 聖母訪問会



☆ルワンダの祈り☆



ルワンダでは、1994年、フツ族によるツチ族の大虐殺がありました。史上稀に見る残虐な内戦によって、ルワンダの人々は心身ともに非常に深い傷を負います。

しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥りかねない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。マリア・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用しております。

獄中POSTシリーズ

* 獄中ボランティアの方が描いた絵画や文字を、ポストカード・封筒・便箋に印刷する企画です。

FAX : 03-6659-5270

メール : motherhouse.tayori@motherhouse-jp.org (QR ↑)



入手方法 : 講演会等での販売のほか、ご注文を受け付けております。

☆ポストカード/封筒は1枚300円、便箋は10枚300円

☆ホームページにカタログ(随時更新)がございます。

☆収益は全て、身寄りのない方の住宅支援に充てられます。

また、ご寄付・ご支援くださった方に、デザイン等ランダムでお贈りしております。

マザーハウスたより 7月号

2019年7月15日発行

発行責任者 : 五十嵐 弘志

〒130-0024 東京都墨田区菊川1-16-17-102 NPO 法人マザーハウス



↑ 理事長 Facebook

↑ 理事長奥さんブログ

↑ MLP 問合せ

ラウレンシオ (便利屋業)

* 元受刑者の就労支援の一環として、不用品処理、遺品整理、掃除などをさせていただきます。お見積りは無料です。

TEL : 080-4614-8508

FAX : 03-6659-5270

メール : lawrance@motherhouse-jp.org (QR →)



古本募金 (きしゃぼん)

* 書籍やDVDを下記送り先にご寄付頂くと、マザーハウスに還元されます。

送り先 : 〒358-0053 埼玉県入間市仏子916

マザーハウス きしゃぼん係

(マザーハウス事務所に送らないようお願いください)

TEL : 0120-29-7000

カウンセリング

* 当事者やご家族の方を対象に、専門家がカウンセリングを行います。

※価格は別途かかります。

メール : counseling@motherhouse-jp.org (QR →)



お問合せ

いつもありがとうございます。随時ボランティアの方を募集しております。

TEL : 03-6659-5260

メール : info@motherhouse-jp.org (QR →)

ホームページ : 「NPO マザーハウス」でご検索ください。(QR ↓)



ご支援

☆正会員 (一口5000円/年) ☆賛助会員 (一口3000円)

☆社会復帰支援(ご寄付)を随時募集しております。

→お振込み口座名 :

特定非営利活動法人 マザーハウス (トクヒ) マザーハウス

郵便振替口座 : 00170-0-586722

みずほ銀行 : 新宿支店 普通口座 2376980

☆洋服等の物資の送付先 :

〒130-0024 東京都墨田区菊川1-16-18-1F マザーハウス

(TEL : 03-6659-2110)

